

.....「史料紹介コーナー」.....

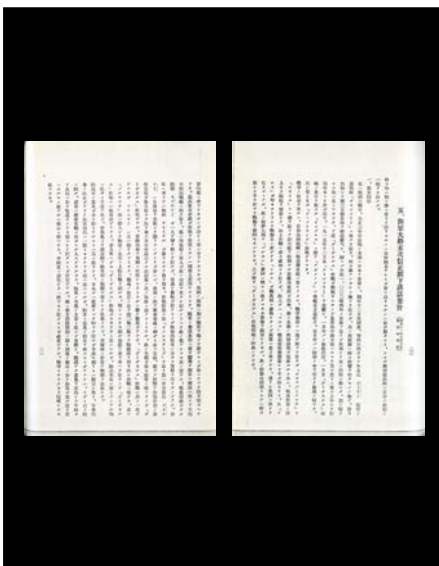
平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

すえつぐ のぶまさ
《 末次 信正 1880~1944年 》
—山口県出身の海軍大将—



末次中佐従軍見聞録 (登録番号：海軍省-日独戦書-T3-225-682)

末次信正大将は、明治32年12月、海軍兵学校(27期)を卒業後、大正3年12月に渡英し、翌4年4月から同年12月まで、第一次世界大戦の観戦武官として英国巡洋艦「クイン・メリー」に乗艦、ドイツの潜水艦戦などについて報告しています。その報告書が「末次中佐従軍見聞録」で、なかでも大正4年7月10日の報告では、「潜水艦ノ出現ハ戦略上ニ至大ノ影響ヲ及ホシ真ニ怖ルヘキ武器ナルコトヲ実証シタルモ(中略)作戦ノ大局ヲ左右スルニハ未タ能力ノ不十分ナル点アリ」とし、海戦は依然として戦艦中心主義であるとしています。そして潜水艦の欠点として、水上移動能力の低いことを指摘するなど、その後の日本海軍の潜水艦の発達、あるいは運用について示唆することが多い報告となっています(他に「海軍少佐 末次信正報告」(海軍省-外駐員報-T3-1-45))。



海軍大将末次信正閣下講話要旨 (登録番号：⑦兵術-7)

大正8年、末次大佐は軍令部第1課長に就任、在任中ワシントン会議の全権委員に随行し、帰朝後の大正11年12月、軍令部第1班長(のちの第1部長)に就任します。そして大正12年12月1日、少将に進級した末次は、自ら進んで第1潜水戦隊司令官に転出します。ワシントン条約により主力艦の保有量が制限されるなか、末次司令官の2年間にわたる斬新な訓練指導は、爾後の潜水艦部隊の運用や技術の発展に大きく貢献しました。この史料は「海軍大将末次信正閣下講話要旨」(昭和11年、於東京水交社)で、「今迄ノ習慣トカ経緯トカニ捉ハレテ積弊除キ難ク改革行ハレ難イ(中略)、切実ナル兵術上ノ要求ヲ基礎トシ不動ノ信念ヲ以テ充分ニ部下ニ納得セシムル異常ノ根氣ト果敢決行トニ依ラナケレバ改革ハ出来ヌ」と述べています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>